

01 江戸から20年後へ。

2045年 AIが様々な分野で人を超える。AI至上主義が生まれ、最大の匿名性を得たAIが君臨する。

2025年 大阪万博が開催される

2024年 能登半島地震

2022年 ChatGPT が発表される

世界的に大きな災害が起こると予想されている。20年前の問題が再び起きている。

1995年 Windows 誕生し、インターネットが普及する

1997年 古着の大ブーム

2009年 「シェアハウス」という言葉が誕生

2011年 東日本大震災

1964年 東京オリンピック開催

1968年 霞が関ビルディングが完成

1973年 第一次マンションブーム

1956年 日本初の民間分譲マンション「四谷コーポラス」が誕生する

1853年 黒船ペリーが来航する

1868年 江戸時代が終わる

1603年 江戸時代が始まる

モノというコモズは徐々に衰退していく

現代では、働いている人、高齢者、子供などや一人世帯、二人世帯と生活リズムが異なる人が共存している。そのため、家を使っている時間はバラバラであり、ましてや家にいる時間は短い。そんな時代に共有空間を設けることだけでコミュニティの形成は可能なのだろうか？

【江戸のシェアリングエコノミー】
衣料品、布団、蚊帳、食器、雨具、道具、家具、畳、などのほか着るのふんどしでさえレンタルするのが当たり前だった。つまりモノで通じていたと言える。

【江戸時代男性の状況】
生涯未婚率 50%

江戸時代は生涯未婚率50%だった。

【現代の世帯構造】
単独高齢者 30%
単独世帯 29.5%
夫婦と未婚の子のみ世帯 27.5%
夫婦と同居の子のみ世帯 24.5%
共働き 70%

【働いている人の平日の平均的な時間割】
6:30 起床 8:00 通勤 9:00 仕事 18:00 帰宅 20:30 食事 23:30 就寝
家にいる時間は4.5hだけである。

【分譲マンション】
Private Private Private Private Private
Public

【江戸時代の長屋】
Private Private Private Private Private
Public Commons (モノ)

もの泥に沈む

江戸から蒙るシェアリングエコノミー

夜家に帰ると、いつも電気がついていて右斜め前の家が暗かった。昼に引越したら、四、五年住んでいたようだが、考えてみれば一度も会ったことはなかった。人との関わりはネットの中へと移行していき、現実世界での関わりはいつの間にかなくなっていたことを実感した。

アメリカから来航した黒船のペリーは日本についてこう言った。「不機嫌そうな顔には一つとして出会わなかった。」しかし、江戸時代の単身者は5割を超えている。現代より深刻な状況であるが、人々は活気にあふれていたようだ。

そんな江戸時代を支えていたものによるシェアリングエコノミーである。

そこで本提案では、私たちが失いつつある目には見えない何かを取り戻し、残していくために、江戸時代からシェアのヒントを得て、現代を見つめ直す。人工知能が発展する今、匿名であるからこそシェアが成り立ち、そこにコミュニティが形成されるのではないだろうか？

モノというコモズは徐々に衰退していく

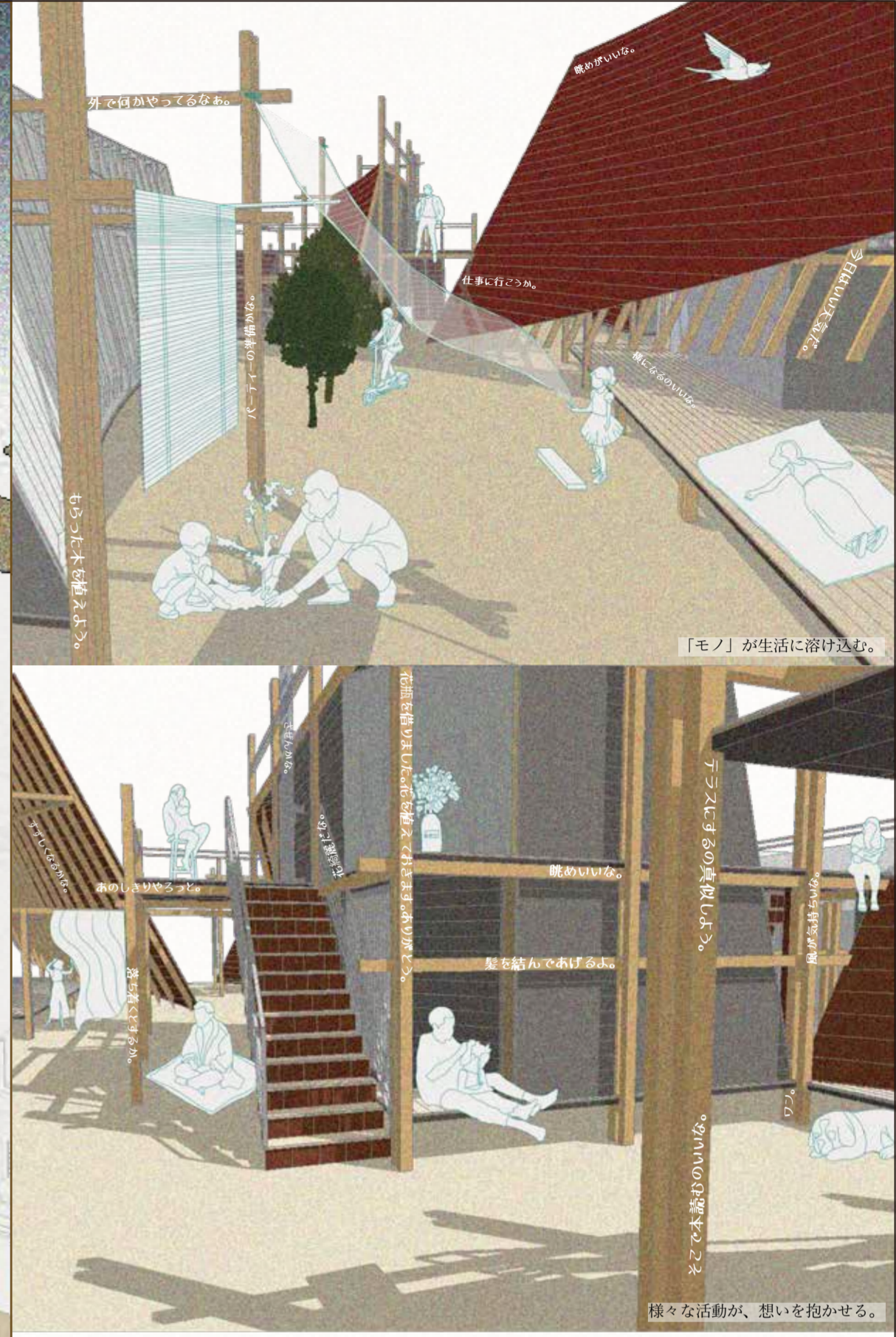
【江戸時代の長屋】
Private Private Private Private Private
Public Commons (モノ)

【現代の世帯構造】
単独高齢者 30%
単独世帯 29.5%
夫婦と未婚の子のみ世帯 27.5%
夫婦と同居の子のみ世帯 24.5%
共働き 70%

【働いている人の平日の平均的な時間割】
6:30 起床 8:00 通勤 9:00 仕事 18:00 帰宅 20:30 食事 23:30 就寝
家にいる時間は4.5hだけである。

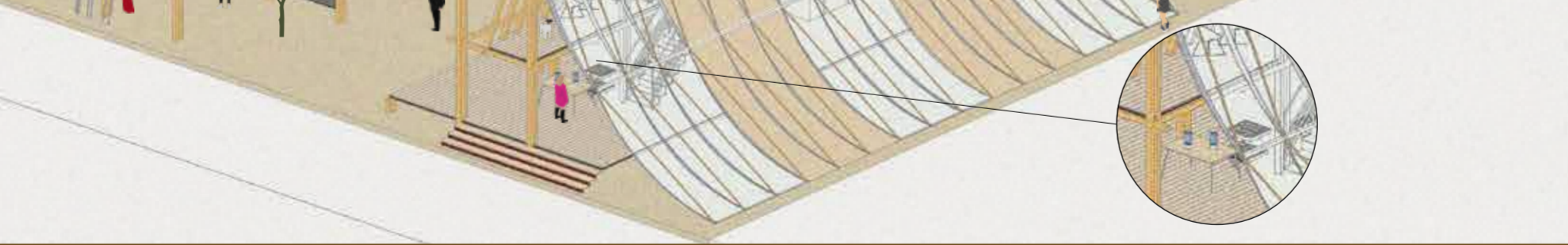
【分譲マンション】
Private Private Private Private Private
Public

【江戸時代の長屋】
Private Private Private Private Private
Public Commons (モノ)



02 未来想定：正解はわかる。

2045年。AIが人間を超える。AIに聞けば、正解がわかるようになる。日本では少子高齢化が進み、ますます人と関わることは減少していく、データにならない何かはどんどん失われようとしている。モノに想いを託した江戸時代から、モノから歴史・痕跡・記憶が失われる時代へと進む。



06 設計手法：感じていたい。

【距離感】
道路に対しては公衆距離である3600ミリを採用し、住居空間では社会距離である2400ミリのグリッドを引く。それに加え、貫く斜めの軸を設けることであらゆる距離感が生まれる。新たに曲線を追加することで、住宅を構成する直線が崩れ新たな距離感と関係性を作り出す。人だけでなく「モノ」とも様々な距離をとることで住宅でありながら街の中にあるような感覚になる。

【平面操作】
① 整列する街区 ② 住戸を分散 ③ 軸の再編 ④ 余白の生成

【断面操作】
① 高床にする ② 高さを変える ③ 断面を削る ④ 建築を繋ぐ

03 提案：僕のもの君のもの、君のものは僕のもの。

【「モノ」の共有】
「モノ」を住人の共有財産とする。ここでいう「モノ」とは、道具・空間だけでなく、スキル・移動手段・柱、梁、床などの建築エレメントも含む。住人は敷地内の「モノ」は自由に使うことができる。「モノ」の所在はAIが管理しており、使用可能かどうかはアプリでわかるようになっている。

【街のストック】
「モノ」のレンタルスペースを設ける。使わなくなったら捨てるのではなく受け継いでゆく。それと同時に、街としてのストックになっており緊急事態に対しても機能することが可能である。

【敷地】
敷地は大阪万博が行われる夢洲から水路を使って運ぶことができる大阪城と天王寺の間に位置する住宅街である。

【使用方の継承】
「モノ」に想いを託し、人の心を繋ぎ止める。匿名性を求むすぎず社会を逆手に取り、匿名であるからこそ共有できるシステムを構築する。正解とはまた違う心地よさを見つける。

04 街の一員だ。

大阪万博 EXPO 2025

生物 土壌 人工知能 研究機関

天王寺公園 大阪城公園

【街のストック】
街のストック

【敷地】
敷地は大阪万博が行われる夢洲から水路を使って運ぶことができる大阪城と天王寺の間に位置する住宅街である。

05 自分の手で助けたい。

【可変性が高い構造】
大阪万博で使用された集成材 パレット固定金物
ロッド入柱 90度
90x120角

【災害時に機能する宿泊というエンジン】
ホフレームや床を用いた災害時のカプセルホテルや棚を計画する。長期間に及ぶ仕分け作業のための作業員の潜在場所として機能する。また解体が容易であるため、避難所に運ぶことで宿泊ブースを作ることができる。

S=1/300 1F PLAN

1 一入暮らし向け
2 ファミリー向け
3 二階住戸への階段
4 シェアキッチン
5 シェア農園
6 レンタルスペース

【使用方の継承】
「モノ」に想いを託し、人の心を繋ぎ止める。匿名性を求むすぎず社会を逆手に取り、匿名であるからこそ共有できるシステムを構築する。正解とはまた違う心地よさを見つける。